

## 四旬節第2主日

ルカ 9:28b-36

皆さんにとって山はどのような場所でしょうか。例えば、高尾山に行けば、美しい景色をみて心が安らぎますね。そこにいれば、リラックスし、エネルギーを充電できます。そして、家に帰り、日々の仕事への活力を取り戻すのです。

聖書では、山は祈りの場として知られています。イエスの生涯においても、しばしば祈るために山に行き、神に語られたのです。山は神との出会い場所でもあります。ですから、山に行くことは、神との出会いを期待することなのです。

今日の福音では、山でイエスが変容されたことについて書かれています。「変容」という言葉は、形や姿が変わることを意味します。変容の出来事によって、キリストの栄光を垣間見ることができます。また、キリストの復活を予感させます。

しかし、なぜ教会はこの福音書を四旬節の第二日曜日に読むのでしょうか。三つの理由があります。

第一の理由は、イエスが真に神であり、真に神の子であることをはっきりしめすためです。私たちの信仰を確認するためです。

第二の理由は、キリストが神でありながら姿を変えられたことの意味をおしえるためです。この出来事からキリストに従う私たちもまた、心と思いが新しくされることを知るためです。そのことを四旬節において私たちに考えさせ、思い起こさせるためです。

第三の理由は、先ほど述べましたように変容はキリストの復活と栄光を予告するものだからです。教会は、この栄光の出来事は、十字架の苦しみと痛みを通して達成されなければならないことを私たちに思い起こさせます。この十字架の真理は私たち全員に当てはまります。それゆえ、「痛みなくして得るものなし」、「十字架なくして冠なし」という言葉があるのです。四旬節の中で私たちはキリストの十字架を思い起こす時を持ちましょう。

ところで、変容の前に、今日の福音書には次のように書かれています。「祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた。(ルカ9・29)」。

つまり、イエスは祈っておられたのです。祈りによって、イエスは栄光を受け、その姿が変化するのです。では、祈りと変容にはどのような関係があるのでしょうか。

イエスと弟子たちは祈るために山に登りました。祈りは、神と私たちの間の隔たりを取り去ります。私たちが神と話をするときなのです。神と何を話すのでしょうか。私たちは自分の問題、人生でうまくいかないこと、悲しいことを祈ります。

しかし、祈りで神に話すことは、それだけでありません。才能や能力など自分が受け取った美しいものについても神様のところに行って話すことができるのです。

祈りとはそもそも、困っていることをお願いすることではありません。祈りとは私たちの側が変えていただくことなのです。私たちは自分のこだわりを見直し、自分の人生に新しいヴィジョンを見出すことができます。

祈りは私たちを変容させ、変化させます。イエスは祈っておられるうちに顔が変わり、服がまばゆいばかりに白くなりました。私たちが祈ることによって、心の中にある嫉妬、怒り、復讐心などを取り除くことはできないかもしれませんが、私たちの心や人生観は確実に変わっていきます。祈りは、私たちがより愛に溢れ、より賢くなるのを助けてくれます。祈りによって、私たちは神に近づくことができます。

祈りは私たちに力を与えてくれます。祈りは、私たちが人生を歩いていくための力を与えてくれます。祈りにおいて神様が私たちと共にいて耳を傾けてくださるので、私たちは一人ではないのだと感ずることが出来ます。

祈りは私たちを前進させます。祈ることは、とても長い自動車旅行の途中でガソリンスタンドに立ち寄るようなものです。私たちが旅を続けるためにガソリンを入れます。ガソリンスタンドでは道を尋ねたり、体を伸ばしたり休憩することもできます。祈りは私たちに方向性を示してくれます。前進するためのエネルギーを与えてくれます。祈りは人生からの撤退ではありません。神への新たな信頼と力をもって旅を続けるために必要な停車なのです。

今日、イエス様が私たちに忠実に祈る方法を教えてくださっていることに耳を傾けようではありませんか。祈りの時間をもっと増やそうではありませんか。祈りとは、神を自分の味方につけようとするものではありません。自分の心の中に住んでおられる神を見だし、神に近づくためのものです。

四旬節にイエスの苦しみを黙想し、神に祈る大切なときを過ごしましょう。

